

## 退職者のひとこと

### 都城制覇！！

奈文研在職中に鳥根県・荒神谷遺跡出土の青物（青銅器）撮影、古代出雲展の撮影、加茂岩倉遺跡の撮影をしたことで、私のアダ名のひとつに「青もんのぎゅうちゃん」がある。私は文化財カメラマンを目指した時、日本では出雲・吉備・北九州地域の撮影をすることを夢見ていると、鳥根では楽しい日々を経験させてもらった。感謝の気持ちでいっぱいである。

平城では長屋王邸から出土した未洗いのコンテナが、今の小講堂（当時、写場）の前に山積みになっており、「なんぼあんねん！！」と。明けても暮れても木簡ばかり、という時もあった。私は同じ仕事・動作をやり続けるということができない性分なので、知らず知らずのうちに木簡の撮影は佃さんの担当ということになった。自然な成り行きであろう。

もうひとつの夢が、京都市にいたころ何度か唐代の資料を中国や日本で撮影をした経験があり、「いつかは大量の唐三彩を撮影したい」であった。この夢も奈文研に来たからこそ叶った夢である。河南省文物考古研究所では嬉しさのあまり、ついつい泥だらけの獸足壺をなめまわしてしまった。「泥の味の記憶」が今も残っている。

学生時代に大津京、卒業してから京都市埋文研にいたので平安京・長岡京、それに合間に大阪市からの依頼で難波宮の撮影にたずさわった。そして平城京、中国でも漢長安城、唐長安城、そして最近の漢魏洛陽城と関わってきた。これからこんなカメラマンは出ないだろう。これだけは自慢してよさそうだ（藤原京は一枚も撮ったことがない）。

今後、九州に本拠地を置き、韓国の加耶で撮影ができるという新たな夢を叶えるため、もう一踏ん張りしなければなりません。（企画調整部 牛嶋 茂）



漢魏洛陽城の現場にて